

東京, 11月.

- 14) 亀岡佳彦, 渡邊知子, 麻植一孝, 近藤達弥, 長谷川意純, 平沼浩一, 奥野憲司, 卯津羅雅彦, 道本顕吉, 清水勤一朗, 貞岡俊一. 大量咯血に対し気管支動脈塞栓術後に脊椎後索梗塞を生じた1例. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 11月.
- 15) 長谷川意純, 奥野憲司, 麻植一孝, 渡邊知子, 近藤達弥, 亀岡佳彦, 三宅 亮, 平沼浩一, 卯津羅雅彦, 武田 聡. 救急部におけるレベチラセタム静注薬の有用性に関する検討. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 11月.
- 16) 武田 聡. (シンポジウム1: JRC蘇生ガイドライン2015: 普及と教育の現状) JRC2015とPCASケートレーニングコース. 日本蘇生学会第35回大会, 福岡, 11月.
- 17) 日比翔彦, 谷島 和, 大木芳美, 桐山信章, 大瀧佑平, 佐藤浩之, 武田 聡. 救急室で急速に進行した意識障害と体幹失調を認めたBickerstaff型脳幹脳炎の一例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2月.
- 18) 北村拓也, 長谷川意純, 麻植一孝, 渡邊知子, 近藤達弥, 亀岡佳彦, 平沼浩一, 奥野憲司, 卯津羅雅彦. ネフローゼ症候群の治療中に門脈血栓症を発症した一例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2月.
- 19) 渡邊知子, 亀岡佳彦, 麻植一孝, 北村拓也, 近藤達弥, 長谷川意純, 平沼浩一, 奥野憲司, 卯津羅雅彦, 武田 聡. ナファゾリン含有殺菌消毒薬中毒による肺水腫の一例. 第67回日本救急医学会関東地方会学術集会, 宇都宮, 2月.

V. その他

- 1) 武田 聡, 大瀧佑平, 鹿瀬陽一. 【知っておきたい救急薬の使い方】《患者急変時の救急薬》 緊急気管挿管・心停止・ACLSなどで用いる救急薬. Mod Physician 2016; 36(6): 508-12.
- 2) 武田 聡. 循環器シミュレーション教育. 心臓 2016; 48(8): 887.
- 3) 武田 聡, 大瀧佑平, 佐藤浩之. 【心電図が臨床につながる本.】 pickup! 知っておきたい救急対応. 臨検 2016; 60(11): 1311-4.
- 4) 武田 聡監修. デキるナースは実は知っている! 医師の診断・実践技術の根拠 ナースがすぐ使える対応のコツ. ナーシング 2017; 37(1): 6-96.

臨床検査医学講座

教授: 松浦 知和	臨床細胞生物学
教授: 大西 明弘	臨床肝臓病学
教授: 海渡 健	臨床血液学
教授: 吉田 博	脂質代謝学, 循環器病学
(総合診療部に出向中)	
教授: 須江 洋成	精神神経医学
教授: 杉本 健一	循環器病学
准教授: 中田 浩二	¹³ C呼気試験による生体機能検査, 機能的消化管障害
講師: 政木 隆博	肝臓病学, ウイルス学, 臨床検査医学
講師: 目崎 喜弘	臨床分子生物学
講師: 河野 緑	臨床微生物学
講師: 秋月 摂子	病態検査学

教育・研究概要

I. 臨床微生物学に関する研究

1. ウイルス性肝炎に関する基礎的および創薬研究 (政木隆博, 松浦知和)

B型肝炎ウイルス (HBV) およびC型肝炎ウイルス (HCV) の基礎研究, 創薬研究を行った。HBVの創薬研究では, ハイスループットスクリーニングでヒットした非核酸アナログ化合物の抗ウイルス効果を, 独自に開発したHBV持続産生細胞株を用いて評価した。HCVの基礎研究では, HCVの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための研究を行った。HCVの全生活環が簡便に解析可能なアッセイ系を構築後, microRNA (miRNA) ライブラリー, マイクロアレイを用いたmiRNAの網羅的かつ統合的なスクリーニング解析を行ない, HCV複製増殖を負に制御するmiRNAを同定した。(AMED・感染症実用化研究事業(肝炎等克服実用化研究事業)|肝炎等克服緊急対策研究事業/B型肝炎創薬実用化等研究事業|2016年度, 文部科学省科研費基盤C)

2. 市中病院における糞便からのESBL産生腸内細菌の検出状況 (河野 緑)

東京都立墨東病院の感染症科外来患者糞便より分離された質特異性拡張型 β -ラクタマーゼ (ESBL) 産生腸内細菌についてESBL遺伝子の型別を行った。血液培養から分離されたHelicobacter属菌について16S rRNA遺伝子配列を用いて同定を行ったところ, *H. cinaedi*と*H. fennelliae*と同定された。*H. cinaedi*についてはMLST法を用い型別を行った。

(東京都立墨東病院・検査科・西原弘人技師との共同研究)

II. 臨床化学に関する研究

1. ^{13}C 呼気試験法を用いた胃切除後患者の消化管機能評価 (中田浩二, 秋月摂子, 大西明弘)

^{13}C 呼気試験法は簡便、非侵襲的かつ安全に胃排出能、消化吸収能などの生体機能を調べることができる有用な検査法である。これらの検査をさまざまなタイプの胃切除術を受けた患者に行い、術式の評価に役立てている。 ^{13}C 呼気試験法を実地臨床の場においてさまざまな疾患の病態解明や治療効果の判定に活用するために定期的に勉強会を主催し研究者間の情報交流与コンセンサス形成を推進している。また本検査法の保険収載を目指して外科系学会社会保険委員会連合より診療報酬改定要望書を提出し、厚生労働省に働きかけを行っている。

2. 脂質代謝異常に関する研究 (吉田 博)

我々が開発し保険医療の検査として承認されたりポ蛋白分画 (HPLC 法) を用いた研究成績をもとに、糖尿病性脂質異常症の特徴として、HDL-C の低値とともに、IDL-C および VLDL-C の高値が肥満度とともに増悪することが確認された。さらに同方法をさらに発展させて測定法を用いて Lp (a)-C の測定も同時に行い、冠動脈疾患リスクスコアとの関連性を分析し、それぞれ国際誌に論文発表した (J Clin Med Res 2016; 8(5): 424-6, J Atheroscler Thromb 2016 Dec 26 [Epub ahead of print])。脂質異常症および動脈硬化のリスクに関わる臨床検査および臨床栄養学のトピックについて総説論文等で発表するとともに、新しい臨床栄養学の教科書として、「研修医・医学生のために症例から学ぶ栄養学」を編集し出版した。

2016年より、臨床検査医学関連の国際誌である Clinica Chimica Acta の Editor として、臨床検査医学領域を基本とする医学研究成績の国際的な発表・普及に努めている。

III. 臨床腫瘍・血液学に関する研究：高度の脾腫をきたす疾患の臨床病理学的検討 (海渡 健)

巨脾を呈する患者背景を検討した結果、基礎疾患は骨髄線維症2例、真性多血症2例、脾臓原発悪性リンパ腫1例、慢性溶血性貧血1例、リンパ形質細胞性リンパ腫1例、男性5例、女性2例、年齢は42~82歳、白血球数は5,600~42,000/ μL 、Hb7.8~20.3g/dL、Ht26.8~65.3%、血小板数は8万~104万/ μL であった。JAK2変異は4例で認められ ruxolitinib

により3例中2例で遺伝子変異アレルが減少した。巨脾は慢性骨髄増殖性腫瘍やリンパ増殖性疾患で認められたがJAK2変異以外にも腫瘍細胞の浸潤や高度の血球破壊などが原因となっていた。

IV. 臨床精神医学に関する研究 (須江洋成)

てんかんあるいは脳波異常に合併した精神症状に興味深かった症例について考察をおこなった。精神症状とともに特異的なてんかん性異常波がみられた興味深い症例の報告、およびてんかんの精神症状の発現についてEyの器質力動論から解釈を試みた。また、てんかんを患う女性の妊娠における主に新規抗てんかん薬の血中濃度の推移について詳細に検討し、論文として報告をした。第112回日本神経学会では「てんかんにおけるレジリエンスを考える」と題してシンポジウムを企画した。そのほか、脳神経外科、小児科、精神科、神経内科のてんかんに興味をもつ先生方が集まったのケースカンファレンスを月1回、定期的に行なっている。

V. 臨床生理学に関する研究 (杉本健一)

心電図自動解析の不整脈診断精度に関し検討を行い学会で報告をした。不整脈領域では、心房細動のカテーテルアブレーションに関連する研究を継続し、欧文誌に報告した。

VI. 臨床免疫学に関する研究 (杉本健一)

臨床検査の検体系に関する研究では、非特異反応に関する研究を継続し、イムノアッセイに影響を及ぼす自己抗体に関して論文を発表した。

VII. 臨床病理学・細胞生物学に関する研究

1. 肝臓星細胞のビタミンA貯蔵と活性化に関する研究 (目崎喜弘)

肝星細胞は肝臓の類洞周囲腔に存在するビタミンA貯蔵細胞であるとともに、肝線維化の責任細胞である。また、ビタミンAの生理作用はレチノイン酸受容体による標的遺伝子の転写制御を介して発揮される。そこで、これまでに明らかにしてきた肝星細胞におけるレチノイン酸受容体の局在や発現調節メカニズムに基づき、レチノイン酸受容体蛋白質の細胞質における粒状の局在が肝星細胞の活性化マーカーとなる可能性を提示した。

2. NASH/NAFLDにおける臨床病理学的検討 (松浦知和)

ヒト肝生検標本を用いて、NASH/NAFLDにおいて線維新生マーカーであるTGF- β LAP-Dの染

色性を検討した。線維化 stage 1b で LAP-D の染色性は高く、LAP-D は fibrogenesis の指標となることが示唆された。

「点検・評価」

1. 教育

1) 1 年次対象

スタートアップ研修 (目崎喜弘, 松浦知和)

2) 2 年次対象

講義 (消化器系: 目崎喜弘: 1 コマ)

3) 3 年次対象

(1) 症候学演習 (松浦知和: 1 回, 河野 緑: 1 回, 目崎喜弘: 1 回)

(2) 講義 (細菌・真菌と感染: 河野 緑: 2 コマ, 栄養学: 吉田 博: 2 コマ)

(3) 医学英語専門文献抄読 I (目崎喜弘: 20 コマ)

(4) 研究室配属 (今年度配属なし)

4) 4 年次対象

(1) 臨床検査医学講義 (海渡 健, 松浦知和, 目崎喜弘, 野尻明由美, 杉本健一)

(2) その他の講義 (血液造血器: 海渡 健: 2 コマ, 薬物治療学: 大西明弘: 5 コマ, 内分泌・代謝・栄養: 吉田 博: 1 コマ, 精神医学: 須江洋成: 1 コマ, 中田浩二: 1 コマ)

(3) 臨床医学演習 (海渡 健: 1 回)

(4) 医学総論Ⅳ演習: ロールプレイ 1・医療面接演習 (松浦知和: 1 回), ロールプレイ 1・標準模倣患者演習 (海渡 健: 1 回)

(5) 基本的臨床技能実習 (合計 40 回, 講座所属教員・非常勤講師・客員教授が分担, 中央検査部技師・講座職員が補助)

5) 4~5 年次

臨床実習 (1 クール 2 日間, 年間 28 回, Reversed CPC および中央検査部見学実習, RCPC は臨床系教員および非常勤講師が分担。見学実習は 4 病院中央検査部技師の協力のもと行われた。)

6) 6 年次

選択実習 (本年度, 受講希望者なし)

7) 大学院

1 年目: 社会人大学院生として, 安藤 隆君, 江崎裕敬君が加わった。

2 年目: 横山 寛君 (消化器・肝臓内科) が肝臓疾患の臨床病理学的研究を開始。

3 年目: 朴ジョンヒョク君が「肝性脳症惹起物質の同定と発症機序に関する研究」を遂行。

8) 教育に関しては, 例年通り 2 年生から 5 年生まで, 臨床検査医学講座の教員が, 臨床検査医学に

留まらず, 内科・精神科・微生物学など広範囲の分野の講義, 実習を担当し, 滞りなく終了した。

2. 研究

講座に所属する教員・医師は研究概要に示した通り, 個々の専門分野を中心とした主に臨床主体の検査に関わる研究を遂行した。国立感染症研究所から政木隆博講師が赴任し, 教育・研究体制が強化された。

研究業績

I. 原著論文

1) Yanai H (National Ctr Global Health Med), Hirowataru Y (Saitama Prefectural Univ), Ito K, Kurosawa H, Tada N, Yoshida H. Understanding of diabetic dyslipidemia by using the anion-exchange high performance liquid chromatography data. *J Clin Med Res* 2016; 8(5): 424-6.

2) Manita D (TOSOH), Yoshida H, Hirowataru Y (Saitama Prefectural Univ). Cholesterol levels of six fractionated serum lipoproteins and its relevance to coronary heart disease risk scores. *J Atheroscler Thromb* 2016 Dec 26. [Epub ahead of print]

3) Konishi H, Nakada K, Kawamura M, Iwasaki T, Murakami K, Mitsumori N, Yanaga K. Impaired gastrointestinal function affects symptoms and alimentary status in patients after gastrectomy. *World J Surg* 2016; 40(11): 2713-8.

4) Nakada K, Takahashi M (Yokohama Municipal Citizen's Hosp), Ikeda M (Asama General Hosp), Kinami S (Kanazawa Med Sch), Yoshida M (Int Univ Health Welfare), Uenosono Y (Kagoshima Univ), Kawashima Y (Saitama Cancer Ctr), Nakao S (Tokyo Women's Med Univ), Oshio A (Waseda Univ), Suzukamo Y (Tohoku Univ), Terashima M (Shizuoka Cancer Ctr), Kodera Y (Nagoya Univ). Factors affecting the QOL of patients after gastrectomy as assessed using the newly developed PGSAS-45 scale: a nationwide multi-institutional study. *World J Gastroenterol* 2016; 22(40): 8978-90.

5) 宮本博康, 伏谷 直, 秋月摂子, 平田龍三, 大西明弘. 肝硬変・肝細胞癌患者の肝予備能と GA/HbA1c 比の検討. *肝臓* 2016; 57(4): 161-70.

6) Nitta S¹⁾, Asahina Y¹⁾, Matsuda M²⁾, Yamada N²⁾, Sugiyama R²⁾, Masaki T, Suzuki R²⁾, Kato N (Okayama Univ), Watanabe M¹⁾ (1Tokyo Med Dent Univ), Wakita T²⁾, Kato T²⁾ (2Natl Inst Infectious Diseases). Effects of resistance-associated NS5A mutations in hepatitis C virus on viral production and suscepti-

- bility to antiviral reagents. *Sci Rep* 2016; 6: 34652.
- 7) Hioki M, Matsuo S, Tokutake K, Yokoyama K, Narui R, Ito K, Tanigawa S, Tokuda M, Yamashita S, Anan I, Inada K, Sakuma T, Sugimoto KI, Yoshimura M, Yamane T. Filling defects of the left atrial appendage on multidetector computed tomography: their disappearance following catheter ablation of atrial fibrillation and the detection of LAA thrombi by MDCT. *Heart Vessels* 2016; 31(12): 2014-24.
- 8) Horikiri T, Hara H, Saito N, Araya J, Takasaka N, Utsumi H, Yanagisawa H, Hashimoto M, Yoshii Y, Wakui H, Minagawa S, Ishikawa T, Shimizu K, Numata T, Arihiro S, Kaneko Y, Nakayama K, Matsuura T, Matsuura M (Teikyo Univ), Fujiwara M (Japanese Red Cross Med Center), Okayasu I (Kitasato Univ), Ito S (Univ Tokyo), Kuwano K. Increased levels of prostaglandin E-major urinary metabolite (PGE-MUM) in chronic fibrosing interstitial pneumonia. *Respir Med* 2017; 122: 43-50.
- 9) Altinel K¹⁾, Hashimoto K¹⁾, Wei Y²⁾, Neuveut C²⁾, Gupta I¹⁾, Suzuki AM¹⁾, Dos Santos A³⁾⁴⁾, Moreau P²⁾, Xia T²⁾, Kojima S¹⁾, Kato S¹⁾, Takikawa Y (Iwate Med Univ), Hidaka I (Yamaguchi Univ), Shimizu M (Gifu Univ), Matsuura T, Tsubota A, Ikeda H (Univ Tokyo), Nagoshi S (Saitama Med Univ), Suzuki H¹⁾, Michel ML²⁾ (²Institut Pasteur), Samuel D³⁾⁴⁾, Buendia MA³⁾⁴⁾, Faivre J³⁾⁴⁾ (³Paul-Brousse Hosp, ⁴Univ Paris Sud), Carninci P¹⁾ (¹RIKEN). Single-nucleotide-resolution mapping of HBV promoters in infected human livers and hepatocellular carcinoma. *J Virol* 2016; 90(23): 10811-22.
- 10) Masubuchi N¹⁾, Sugihara M¹⁾, Sugita T, Amano K, Nakano M, Matsuura T¹⁾ (¹Daiichi Sankyo). Oxidative stress markers, secondary bile acids and sulfated bile acids classify the clinical liver injury type: promising diagnostic biomarkers for cholestasis. *Chem Biol Interact* 2016; 255: 83-91.
- 11) Narui R, Matsuo S, Isogai R, Tokutake K, Yokoyama K, Kato M, Ito K, Tanigawa SI, Yamashita S, Tokuda M, Inada K, Shibayama K, Miyanaga S, Sugimoto K, Yoshimura M, Yamane T. Impact of deep sedation on the electrophysiological behavior of pulmonary vein and non-PV firing during catheter ablation for atrial fibrillation. *J Interv Card Electrophysiol* 2017; 49(1): 51-7. Epub 2017 Mar 11.
- 12) 須江洋成, 岩崎 弘, 小高文聰, 岡部 究, 中山和彦. てんかんに伴う精神症状の解釈 ネオジャクソニズム (Ey) からの一考察. てんかん研究 2017; 34(3): 603-9.
- 13) Sakaguchi M (Moriguchi Keijinkai Hosp), Manabe N¹⁾, Ueki N (Tokyo Rosai Hosp), Miwa J (Toshiba General Hosp), Inaba T (Kagawa Prefectural Central Hosp), Yoshida N (Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hosp), Sakurai K (Hattori Clin), Nakagawa M (Hiroshima City Hosp), Yamada H (Shinko Hosp), Saito M (Michiya Clin), Nakada K, Katsuhiko I (Nippon Med Sch), Joh T (Nagoya City Univ), Haruma K¹⁾ (¹Kawasaki Med Sch). Factors associated with complicated erosive esophagitis: a Japanese multicenter, prospective, cross-sectional study. *World J Gastroenterol* 2017; 23(2): 318-27.
- 14) Takahashi M (Yokohama Municipal Citizen's Hosp), Terashima M (Shizuoka Cancer Ctr), Kawahira H (Chiba Univ), Nagai E (Kyushu Univ), Uenonono Y (Kagoshima Univ), Kinami S (Kanazawa Med Sch), Nagata Y (Nagasaki Univ), Yoshida M (Int Univ Health Welfare), Aoyagi K (Kurume Univ), Kodera Y (Nagoya Univ), Nakada K. Quality of life after total vs distal gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction: use of the Postgastrectomy Syndrome Assessment Scale-45. *World J Gastroenterol* 2017; 23(11): 2068-76.
- 15) 西原弘人¹⁾, 小林謙一郎¹⁾, 阪本直也¹⁾, 岩淵千太郎¹⁾ (¹東京都立墨東病院), 河野 緑, 政木隆博, 松浦知和. 東京都立墨東病院の感染症科外来患者における糞便からの ESBL 産生腸内細菌の検出状況. 医学検査 2017; 66(2): 141-6.

II. 総 説

- 1) 吉田 博. 脂質異常症, 動脈硬化診断の up to date リポ蛋白分析 リポ蛋白分画の評価と陰イオン交換クロマトグラフィー法. *臨病理* 2016; 64(6): 643-50.
- 2) 中田浩二. 上部消化管の術後評価のための指標 PGSAS-45 (Postgastrectomy syndrome assessment scale-45). *臨外* 2016; 71(12): 1385-8.
- 3) 杉本健一. 【日常検査からみえる病態-心電図検査編】徐脈性不整脈. *臨検査* 2016; 60(3): 278-86.
- 4) 松浦知和, 目崎喜弘, 政木隆博, 松本喜弘, 前橋はるか, 中村まり子, 中田浩二, 朴ジョンヒョク, 横山寛. バイオ人工肝臓開発から臨床検査医学へ 空腹時¹³C-glucose 呼吸試験の開発. *臨病理* 2016; 64(5): 558-63.
- 5) 阿部正樹, 鈴木晴美, 杉本健一, 海渡 健. イムノアッセイに影響を及ぼす自己抗体の検討とその干渉様式の種類について. *日臨検自動化会誌* 2016; 41(1): 94-100.
- 6) 海渡 健. 第7章: 重大事故発生後の対応 1. 重大事故発生後の院内対応 (病院管理者). 一般社団法

人日本臨床医学リスクマネジメント学会監修, 日本臨床医学マネジメント学会テキスト作成委員会編, 医療安全管理実務者標準テキスト, 東京:へるす出版, 2016. p.191-6.

- 7) 海渡 健.【糖尿病のチーム医療からトータルケアへ】チーム医療を成功に導くための TeamSTEPPS. 月刊糖尿病 2016 ; 8(1) : 8-15.
- 8) 吉田 博. 臨床検査のガイドライン JSLM2015 活用のポイント 臨床検査のガイドライン JSLM2015 における代謝・栄養分野の概要. 臨病理 2017 ; 65(3) : 309-13.
- 9) 目崎喜弘. Stra6 による細胞内へのビタミン A 取り込み機構. ビタミン 2017 ; 91(2) : 139-41.

III. 学会発表

- 1) 須江洋成. (会長企画シンポジウム (コーディネーター)) てんかんにおけるレジリエンスを考える. 第 112 回日本精神神経学会学術総会. 千葉, 6月.
- 2) 後藤萌子, 市村奈津子, 富永健司, 長谷川智子, 吉田 博. 当院におけるインフルエンザ検査件数および陽性件数の状況. 第 54 回成医会柏支部例会. 柏, 7月.
- 3) 菱木光太郎, 小池 優, 長谷川智子, 吉田 博, 山田 尚. プロモドメイン阻害薬 I-BET151 に対する耐性 U937 株の特徴. 第 17 回日本検査血液学会学術集会. 福岡, 8月.
- 4) 横山雄介, 加藤庸介, 高山智美, 中田瞳美, 森田由記, 宮本博康, 平田龍三, 大西明弘. 多項目自動血液分析装置 XE-5000 を用いた胸水中悪性細胞検出の試み. 第 17 回日本検査血液学会学術集会. 福岡, 8月.
- 5) 吉田 博. (教育講演 3 : 臨床検査のガイドライン JSLM2015 活用のポイント) 代謝・栄養分野における臨床検査のガイドライン JSLM2015 の概要. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : np6]
- 6) 遠山 麻, 稲田みのり, 鈴木亮平, 菱木光太郎, 鶴川治美, 齋藤正二, 歳川伸一, 長谷川智子, 吉田 博. 全自動化学発光酵素免疫測定装置 (AIA-CL2400) を用いた TSH, FT3, FT4 の基礎的検討及び乖離例の解析. 日本臨床検査自動化学会第 48 回大会. 横浜, 9月.
- 7) 中田浩二, 秋月摂子, 平田龍三, 大西明弘, 松浦知和. (口演 : (臨床検査) 遺伝子・染色体検査 遺伝子解析, 精度管理) ¹³C 呼吸試験法胃排出能検査の臨床応用に向けての検討. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 12-2]
- 8) 宮本博康, 中田瞳美, 平田龍三, 秋月摂子, 中田浩二, 大西明弘. (口演 : (臨床検査) 臨床化学 蛋白) 肝硬変・肝細胞癌患者における肝線維化マーカーの M2BPGi と IV 型コラーゲンの比較. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 4-8]
- 9) 赤峯里望, 神尾郁花, 酒井香菜子, 鳥塚純子, 下條文子, 星野陽子, 平田龍三, 大西明弘, 中田浩二, 芝田貴裕. (口演 : (臨床検査) 生理機能検査 超音波検査 1) 血管内皮機能検査における臨床への応用. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 7-2]
- 10) 俵木美幸, 横山雄介, 平田龍三, 大西明弘. (口頭) 抗サイログロブリン抗体がサイログロブリン測定に与える影響について. 日本臨床検査自動化学会第 48 回大会. 横浜, 9月. [日臨検自動化学会誌 2016 ; 41(4) : 488]
- 11) 目崎喜弘, 松浦知和. (口演 : (臨床検査) 臨床化学 蛋白) レチノイン酸受容体 α タンパク質の細胞質における粒状の局在は肝星細胞の活性化マーカーとなり得る. 第 63 回日本臨床検査医学会学術集会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 4-7]
- 12) 松浦知和, 目崎喜弘, 横山 寛, 永妻啓介, 政木隆博, 小嶋聡一 (理化学研究所). (口演 : (臨床検査) 臨床化学 その他 1) 慢性肝疾患における肝線維新生マーカー TGF- β LAP-D と肝線維化マーカー M2BPGi の継時測定. 第 63 回日本臨床検査医学会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 4-24]
- 13) 横山 寛, 永妻啓介, 白井美佐子, 目崎喜弘, 政木隆博, 朴ジョンヒョク, 小嶋聡一 (理化学研究所), 松浦知和. (口演 : (臨床検査) 病理 病理組織検査) 非アルコール性脂肪性肝炎の肝病理組織における TGF- β LAP-D の分布とその意義. 第 63 回日本臨床検査医学会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 5-7]
- 14) 政木隆博, 目崎喜弘, 松浦知和. (口演 : (臨床検査) 遺伝子・染色体検査 感染症) C 型肝炎ウイルス感染における宿主マイクロ RNA の網羅的発現プロファイリングと機能解析. 第 63 回日本臨床検査医学会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 12-8]
- 15) 河合昭人, 鈴木恒夫, 池田勇一, 野尻明由美, 小笠原洋治, 海渡 健, 松浦知和. (口演 : (臨床検査) 生理機能検査 超音波検査 1) 病棟配置心電計の安全管理への取り組み TeamSTEPPS を意識した積極的労務支援の一環. 第 63 回日本臨床検査医学会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 7-6]
- 16) 岩崎優香, 山田実早希, 森田寛子, 赤堀つぐみ, 長枝早苗, 伊藤洋子, 森田豊寿, 藤原陸憲, 新井吉則, 有廣誠二, 松浦知和. (口演 : (臨床検査) 臨床化学 電解質・無機物) 潰瘍性大腸炎の経過観察における尿中プロスタグランディン E 主要代謝産物 (PGE-MUM) の有用性. 第 63 回日本臨床検査医学会. 神戸, 9月. [臨病理 2016 ; 64(補冊) : 4-18]

- 17) 片桐典子¹⁾, 若林深恵 (富士レビオ), 有廣誠二, 藤田幸佑, 堀田佳之, 北村由之, 森山和重, 松浦知和, 岡安 勲 (北里大), 藤原睦慶²⁾, 富田健一郎²⁾, 重永慎二²⁾, 宮下ゆりか²⁾ (²日赤医療センター), 八木慎太郎¹⁾ (¹先端生命科学研究所), (口頭) 尿中プロスタグランジン E₂ 主要代謝産物の全自動・科学発光酵素免疫測定法の開発. 日本臨床検査自動化学会第48回大会. 横浜, 9月. [日臨検自動化学会誌 2016; 41(4): 497]
- 18) 佐藤 亮, 長谷川智子, 吉田 博. アンジオテンシン II 刺激による血管内皮細胞における MMP2mRNA 発現量の変化と AGTR2 の発現. 第56回日本臨床化学会年次学術集会. 熊本, 12月.
- 19) 西原弘人¹⁾, 風間晴子¹⁾, 大西玲子¹⁾, 根岸久実子¹⁾ (¹東京都立墨東病院), 河野 緑, 政木隆博, 松浦知和. 東京都立墨東病院の外来患者における糞便からの ESBL 産生腸内細菌の検出状況について. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 長崎, 1月. [日臨微生物誌 2016; 27(Suppl.): 304]
- 20) 富永健司, 泉澤友宏, 金子知由, 宮本佳子, 菅野みゆき, 堀野哲也, 吉田 博. 当院におけるレジオネラ環境検査 (冷却塔) 9年間の現状. 第32回日本環境感染学会総会・学術集会. 神戸, 2月.

IV. 著 書

- 1) 吉田 博. 第3章: 生化学的検査 (I). 宮澤幸久 (帝京大), 米山彰子 (虎の門病院) 監修, 日本臨床検査医学会編集協力. 最新検査・画像診断事典. 2016-2017年版. 東京: 医学通信社, 2016. p.44-79.
- 2) 中田浩二. Ⅲ章: 消化管疾患 B. 胃・十二指腸 10. 胃術後障害. 小池和彦¹⁾, 山本博徳 (自治医科大), 瀬戸泰之¹⁾ (¹東京大) 編. 消化器疾患最新の治療 2017-2018. 東京: 南江堂, 2017. p.181-4.
- 3) 政木隆博, 加藤孝宣 (国立感染症研究所). Ⅱ. 肝臓 1. 肝炎ウイルス研究の進歩: マイクロ RNA-122 による C 型肝炎ウイルスゲノム複製の制御機構. 竹原徹郎 (大阪大), 金井隆典 (慶應義塾大), 下瀬川徹 (東北大), 島田光生 (徳島大) 編. Annual Review 消化器 2016. 東京: 中外医学社, 2016. p.68-73.
- 4) 須江洋成, 中山和彦. 2. 臓器別のアプローチ 【中枢神経系】 てんかん. 加藤明彦 (浜松医科大), 小松康宏 (聖路加国際病院), 中山昌明 (福島県立医科大) 編. 透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ. 東京: 日本メディカルセンター, 2016. p.83-4.
- 5) 吉田 博. 第2章: 栄養学の基礎-医師のためのミニマムエッセンス 4. 三大栄養素とその異常 (3) 脂質代謝異常. 折茂英生 (日本医科大), 勝川史憲 (慶應義塾大), 田中芳明 (久留米大), 吉田 博編著. 研

修医・医学生のための症例から学ぶ栄養学. 東京: 建帛社, 2017. p.18-22.

V. その他

- 1) 吉田 博, 廣渡祐史 (埼玉県立大学). イオン交換クロマトグラフィによるリポ蛋白ビタミン E 濃度の自動測定法の確立. ビタミン E 研究会編. ビタミン E 研究の進歩 17. 東京: サンプラネット, 2016. p.10-4.
- 2) 中田浩二. 巻頭言 腸内細菌の今日的话题. 機能食品と薬理栄養 2016; 10(1): 407.
- 3) 中田浩二. あなたがチーム医療の主役である. ALPHA CLUB 2016; 412: 2-3.
- 4) 中田浩二. あなたの「自己対処力」を高める. ALPHA CLUB 2016; 411: 2-3.